

# リスク管理

IT環境の大きな発展に伴い、現代では企業活動のあらゆる場面で、情報システムが重要な役割を果たしている。そのため、経営戦略や事業戦略と同等の位置づけで情報システム戦略を検討することが求められている。

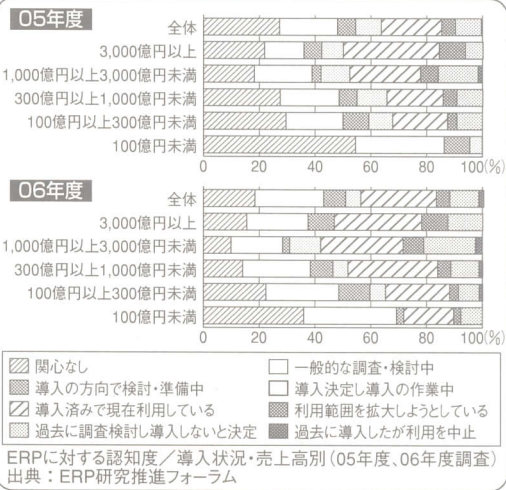
しかし、情報システムが広く普及するに伴って、競合他社に対して競争優位性を築くことも困難になってきている。特に事務処理系を中心とした業務アプリケーション分野においては、ERP（企業資源計画）を始めとしたパッケージシステムの導入率が増加傾向にあり、企業内の情報システム環境の差別化が難しい状況も生まれつつある。

企業が継続的な成長を遂げるために、自社の情

## リスクマネジメント

### ABC

## 情報システム戦略



## 「守り」と「攻め」を選択構築

報システムに何を求めるかを問われる時代になり、選択次第でシステム方式も大きく異なる可能性がある。この検討を深める際の第一歩として、情報システム導入の目的を「守り」と「攻め」に分けることを提案したい。

ERP等のパッケージシ

「守り」とは、世間一般の動向に追随し、後れを取らないレベルでの情報システム化を意味する。この位置づけでの情報システムでは、既に確立された技術を利用することが中心となる。つまり、ERP等のパッケージシ

システムの導入を主体として、「攻める」情報システム戦略は、経営戦略や事業戦略と統合的に考え、企業の外部環境変化や内部環境変化に大きな影響を受けることを理解する必要がある。また、始めから成功モデルが与えられるわけではなく、試行錯誤を繰り返すことによって、独自の成功モデルを創造する取り組みが必要であることも意味する。

これは「攻める」情報システム戦略の技術的な要件として、既存の枠に当てはまらない柔軟性と拡張性が求められることになる。業界の一般的な機能を保有し、普及率の高いパッケージシステムが最適解ではない可能性があることを念頭に置くべきである。